

# 救急章報告書

(2017年9月1日 教育規程改正に基づく)



日本ボーイスカウト富山県連盟

地区 第 団 スカウト隊

氏名 \_\_\_\_\_

(1) ボーイスカウト救急法講習会を修了する。

ただし、次の講習の場合では、ボーイスカウト救急法講習会の一部細目を履修することができる。これらの講習会で履修できなかった細目については、別途審査を受け、合格すること。

ア 日本赤十字社の行う救急法講習会(普通 4 時間以上+救急員養成講習 12 時間以上、満 15 歳以上)の修了者は、ボーイスカウト救急法講習会細目の 1. から 14. までを履修したものとみなす。

(\*日赤の救急員養成講習は普通講習を修了しないと受講できません)

イ 消防署で行われる普通救命講習Ⅱ(4 時間)の修了者はボーイスカウト救急法講習会細目の 1.2.3.14 を、上級救命講習(8 時間)の修了者は同細目の 1.2.3.4.10.13.14 を履修したものとみなす。

ウ 各講習の修了証のコピーを貼付ください。

## ボーイスカウト救急法講習会細目

細目内容	日赤 救急 講習	消防 普通 II	消防 上級 講習	審査員の認定 日付・サイン
1. 救急法の基本 次のことについて説明できる。 (1)救急法の意義 (2)傷病者の観察 (3)応急手当ての流れ	(2) (3)	(2) (3)	(2) (3)	
2. 心肺蘇生法 (1)心肺蘇生法の手順を説明できる。 (2)気道内異物除去の意義を説明し、正しく実演できる。 (3)気道確保の意義を説明し、正しく実演できる。 (4)人工呼吸法の意義を説明し、マウス・ツー・マウスによる呼気吹き込み法を正しく実演できる。 (5)胸骨圧迫（心臓マッサージ）の意義を説明し、正しく実演できる。	履修 認定	履修 認定	履修 認定	
3. AED（自動体外式除細動器） (1)AEDの適正を理解し、説明ができる (2)AEDの使用の手順を説明できる (3)AEDが作動しない心臓の状態と、そのような状態の時には何をしなければいけないかを説明できる。	(1) (2)	(1) (2)	(1) (2)	
4. 止血法 以下の止血の説明ができ、出欠の状態に適した止血法がそれぞれ実演できる。 (1)直接圧迫止血法 (2)止血帯止血法	(1)	—	履修 認定	
5. ショック ショック状態の徴候と、予防のための手当てを説明できる。	履修 認定	—	—	
6. 食中毒 食中毒について説明し、その予防と手当ての方法を説明できる。	—	—	—	
7. 一酸化炭素中毒 一酸化炭素中毒を説明し、その予防と回避する方法を実演できる。	履修 認定	—	—	
8. 熱中症 熱中症の種類とその予防、応急手当てを説明し、実演できる。	—	—	—	
9. 頭部外傷 頭部打撲時の症状と注意事項を説明できる。	履修 認定	—	—	
10. 骨折、捻挫 次の部位の骨折、捻挫、打撲に対し身近な道具を用い、創意と工夫で正しい応急手当てができる。 (1)鎖骨 (2)上腕 (3)前腕 (4)大腿骨 (5)下腿 (6)人差し指 (7)手首・足首の捻挫 (8)四肢の打撲	履修 認定	—	履修 認定	
11. きず等 (1)きずの種類と応急手当てについての一般的注意事項を説明できる。 (2)日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当てができる。 ア 鼻血 イ 目のちり ウ やけど エ 指の切りきず オ 立ちくらみ カ 腹痛	(2) ア～オ	—	(2)ウ	
12. 動・植物による被害 以下の生物による被害の予防と応急手当てを説明できる。 (1)スズメバチ刺傷 (2)毒ヘビ咬傷 (3)イヌ咬傷(4)ムカデ咬傷 (5)ウルシ接触性皮膚炎	(2)(3)(5)	—	—	
13. 搬送法 傷病者を搬送する方法を一人法で3通り、二人法で2通り、三人法で1通りが実演できる。また、急造担架を作り、担架で運ぶ時の注意を説明し、その担架で実際に運ぶことができる。	履修 認定	—	履修 認定	
14. 救急要請 電話で救急車を要請する時の必要事項を説明し、通報を実演する。	履修 認定	履修 認定	履修 認定	

＜各講習の修了証コピーを貼付＞

1- (1) : ボーイスカウト救急法の意義を述べてください。

(P2~5)

3- (3) : AED が作動しない心臓の状態と、そのような状態のときには何をしなければいけないか述べてください。

(P41)

4 : 以下の止血法を述べてください。

(1) 直接圧迫止血法 (2) 止血帯止血法

(P80~83)

\* 上級 (1) (2) ・日赤 (1) は受講にて履修認定

5 : ショック状態の徴候と、予防のための手当て方法を述べてください。

(P54)

6：食中毒について説明し、その予防と手当の方法を述べてください。(P160～168)

7：一酸化炭素中毒を説明し、その予防と回避する方法を述べてください。

(P206～208)

8：熱中症の種類とその予防、応急手当を説明し、実演してください。(P58～66)

9 : 頭部打撲時の症状と注意事項を述べてください。

(P105)

--

10 : 次の部位の骨折, 捻挫, 打撲に対し応急手当を実演してください。

症状	手当てのポイント	参考P
(1) 鎖骨		129
(2) 上腕		103, 129
(3) 前腕		103, 130
(4) 大腿骨		132
(5) 下腿		132
(6) 人差し指		131
(7) 手首・足首の捻挫		98~100
(8) 四肢の打撲		98~100

\* 上級・日赤講習は受講にて履修認定

11-(1) : きずの種類と応急手当についての一般的注意事項を述べてください。

(P86~96)

--

11- (2): 日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当を述べてください。

症状	応急手当	参考 P
ア) 鼻血		(109)
イ) 目のちり		(107. 108)
ウ) やけど		(154~158)
エ) 指の切り傷		(93)
オ) 立ちくらみ		(202~203)
カ) 腹痛		(180~182)

12 以下の生物による被害の予防と応急手当を述べてください。

症状	応急手当と予防	参考 P
1) スズメバチ刺傷		(143~146)
2) 毒ヘビ咬傷		(139~143)
3) イヌ咬傷		(134~135)
4) ムカデ咬傷		(147)
5) ウルシ接触性皮膚炎		(147~148)

13-(1): 傷病者を搬送する方法を一人法で3通り、二人法で2通り、三人法で1通り図解で示してください。(P210~213)

搬送法	図（簡単でよいのでわかるように記載ください）
一人法	
二人法	
三人法	



(2) 隊の救急箱を整備し（未整備品，充足・不足物品のリストアップを含む）その  
 チェックリストを提出する。 (P224)

救急箱を整備するときの注意事項

--

整備前の救急箱収納物（隊・団）（実施日）

品目	設定数	数量	品目	設定数	数量

未整備品，充足・不足物品など（活動の設定）（実施日）

品目	設定数	数量	品目	設定数	数量

整備後の救急箱収納物（実施日）

品目	設定数	数量	品目	設定数	数量

次への申し送り等

--

(3) 県連盟，地区単位で設置される救護所の奉仕や隊活動，キャンプでの救護係を  
通算 5 日以上担当し，その報告書を提出ください。

活動	月日～月日	日数	内容

救護係や日常生活で遭遇した種類の違う 5 例の傷病について、おこなった手当の経過  
をまとめ、報告書を作成してください。（傷病者はイニシャルで記載）

① 日時	場所	傷病者 (A・A)	年齢
発生状況・原因・応急手当内容			
手当後の状況			
② 日時	場所	傷病者 (A・A)	年齢
発生状況・原因・応急手当内容			
手当後の状況			
③ 日時	場所	傷病者 (A・A)	年齢
発生状況・原因・応急手当内容			
手当後の状況			

④ 日時	場所	傷病者 (A・A)	年齢
発生状況・原因・応急手当内容			
手当後の状況			
⑤ 日時	場所	傷病者 (A・A)	年齢
発生状況・原因・応急手当内容			
手当後の状況			
実施後の感想ほか			

上記の通り担当したことを証明する 隊長サイン \_\_\_\_\_

1の取り組みについてはボーイスカウト日本連盟救急法の改訂版に基づいた参考ページを記載します。

## 2・3の取りくみのポイント

(2)隊の救急箱を整備し（未整備品、充足・不足物品のリストアップを含む）そのチェックリストを提出します。

### ◇救急箱を整備するときの注意事項

- ①救急箱の整備については、HB224の救護所備品リスト（太字部分）を参考にして自隊での必要な個数（量）を設定し、活動前に揃えておくことが大切です。
- ②隊集会実施は室内活動・デイキャンプ・1泊～3泊の活動・施設利用等々、状況によってちがいがあります。
- ③救急箱の設置についても、各隊で設置しているところと、団で設置している所。
- ④隊活動について、活動場所や季節によって異なります。

上記の内容をまず確認し、場面に応じた整理が出来ているか？品物の準備が出来ているか？不足分の準備が出来ているか？が大切です。その旨を分かりやすく記入します。

### ◇整備前の救急箱収納物

隊の設定数を隊長と相談して設定し記載、現在入っている物を確認し記入します。

### ◇未整備品、充足・不足物品など

隊集会・班集会等の状況を考慮して必要な物・不必要なものを記載します。

（集会の内容を記載）

### ◇整備後の救急箱収納物

持ち帰った時の状態を記載する。（以後の保管時の状態を記載）

- ①記載リストは、今後次の集会や使用時に大切な情報として残し、1回だけの用紙にしないようにすることが大切です。（継続して実施しましょう）
- ②使用期限の切れたものは、破棄し交換したことを記載し、使用方法の記載用紙があるものは必ず入れておくなどの対応は大切です。
- ③できれば整備の日時や、担当のサインがあると、次の人に分かりやすい。  
記載用紙が足りない場合は、隊独自の様式等を用いて記載します。
- ④実施後の感想や、今後の取組み等を記載することも大切です。

(3)県連盟、地区単位で設置される救護所の奉仕や隊活動、キャンプでの救護係を通算5日以上担当し、その報告書を提出します。

- ① 隊活動における救護係として係わり、実施した記録等を記載します。
- ② 隊の救護係や日常生活において遭遇した種類の違う傷病を5例記載します。

### **\*例 応急手当の実施内容**

虫刺され（個所）⇒軟膏塗布（軟膏名）⇒翌日確認（腫れが引いていた等）

擦り傷（個所）⇒傷口処置（傷テープ）⇒活動終了時・または翌日の状態等（かさぶたになっていた等）

処置時の状況や、その後の経過（本人の状態）も記載します。

※（報告書とは、いつ・どこで・誰が・何を・どうして・どうなった）

誰が見ても解りやすく！！